

2nd Global Summit on Diamond Open Access in Cape Town 参加報告

2024/12/24

坂本 拓 JPCOAR

IN MEMORIAM
1914 1918
1939 1945



2nd Global Summit on Diamond Open Access

日時：2024年12月9日～13日

• 12/9 - 12/11 : Open Science in the
South 2024

• 12/11 - 12/13 : Conference on Diamond
Open Access



UNESCO

「オープンサイエンスに関する勧告」

UNESCO Recommendation on Open
Science

- ・ 2021年11月の第41回ユネスコ総会
- ・ 193か国が共通基準を遵守することに合意

「ダイヤモンドOAを、実施プロセスの非常に重要な
部分と考えている」

ダイヤモンド OA とは？

Green OA

機関リポジトリを中心としたセルフアーカイブ

Gold OA

出版社にAPCを支払う必要のある商業OA

Diamond OA

読む人も、論文を投稿する人も完全無料のOA

Conference on Diamond Open Access

2024年テーマ

*“Centering social justice in scholarly
communication*

to advance research as a public good“

(研究を「**公共財**」として推進するために、
学術情報流通において「**社会正義**」を重視
する)

→ **ダイヤモンドOAの社会における道義的な価値**を
とても強調。

学術情報流通における社会正義とは？

- Inclusivity (包括性)
- Demarginalization (脱・疎外)
 - 書誌的多様性、言語的多様性、地域的多様性
- Decolonization (脱・植民地主義)

かつての植民地主義

欧米列強 → アフリカ、ラテンアメリカ等

搾取！

現代の植民地主義

欧米の大手出版社 → 学術コミュニティ (特に途上国)

搾取！

科学と知識の植民地化

Diamond Open Access Conference

2023 (メキシコ・トルーカ)

- 脱Gold OA

「APCの拒絶」を全会一致で採択。

研究助成団体が、APCの助成による投稿支援には持続性がない
ため、ダイヤモンドOAのインフラ構築助成に代替する事例も。
(他方、属人的なボランティア運営も多い)

- 研究評価

現在の研究評価の枠組みが、ダイヤモンドOA推進を阻害



2024年はこれらを踏まえて議論

APCへの拒絶感

- Plansに対する反発
 - ・ 転換契約によって「誰が取り残されるのか」が全く考えられていない。途上国がAPCで研究成果を発表する非現実性。
- 2013～2020でAPCが3倍に（ブラジル）
- APCは払い捨てで、長期的なインフラは何も残らない。

ダイヤモンドOAのインフラ

RedALyc

ラテンアメリカのジャーナル出版プラットフォーム。2003年から運営。非営利出版者のみ参加可能。閲覧も投稿も無料。

- ・ 利用状況

月間100万人のユーザー、年間1億ダウンロード以上

- ・ 財政基盤

メキシコ州立大学等の教育・研究機関、政府機関からの助成と、
協賛機関の援助

商業出版社の5%以下のコストで運営



Ouvrir la Science (National Fund for Open Science)

予算 2500万 (5年総額)

うち715万ユーロを、ダイヤモンドOAに投資

- National Research Infrastructure
- Disseminating platforms and publishing entities
- Scholarly publishing projects

European Diamond Capacity Hub (EDCH)

2025年1月立ち上げ予定

- ・ヨーロッパのDOAジャーナルは、孤立・散在していて、運営・可視性・持続性に課題を持っている。
- ・EDCHは、欧州のDOAコミュニティ、DOA出版者、サービスプロバイダー等に他機関との諸調整、持続性、研修、ツール等を提供して支援。

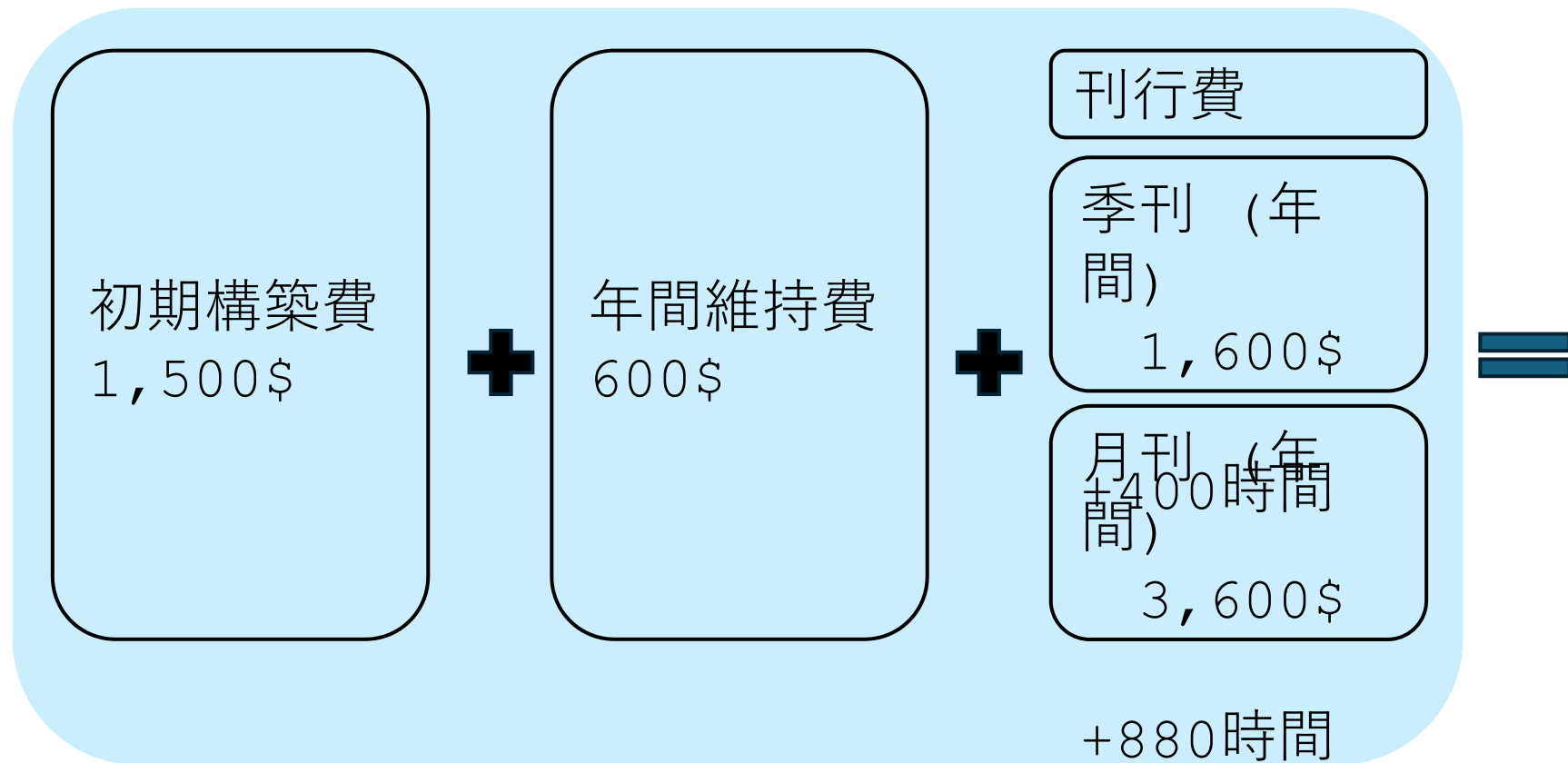


Knowledge E

(学術情報コンサルタント)



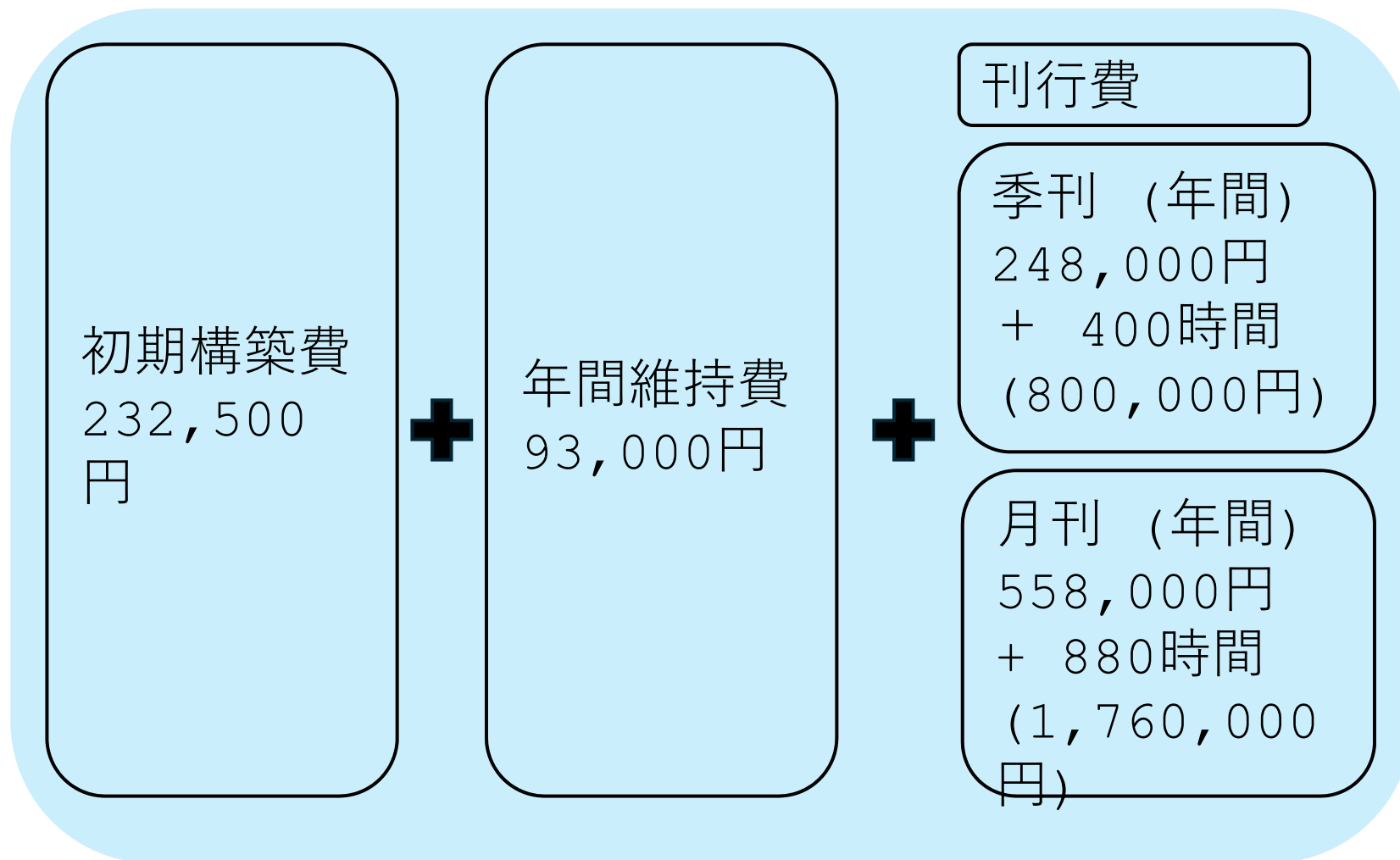
OAジャーナル刊行コストの見積もり



※査読者・編集委員は無償想定

※ 毎号、論文7本掲載想定

OAジャーナル刊行コスト



※ 1 \$ = 155 円換算 ※ 2,000 円/h
換算

→APCは、40,750 円 (季刊)
刊、

28,702 円 (月

「転換」

転換契約

購読料 → APC

(出版社の掌の上で、彼らの利益を増やしているだけ)

本当に必要な転換

出版社への支払い → ダイヤモンドOAへの投資

研究評価の問題点

書誌的・言語的多様性の欠如

- ・研究成果物のうち「論文」だけ

- ・言語のうち「英語」だけが評価される



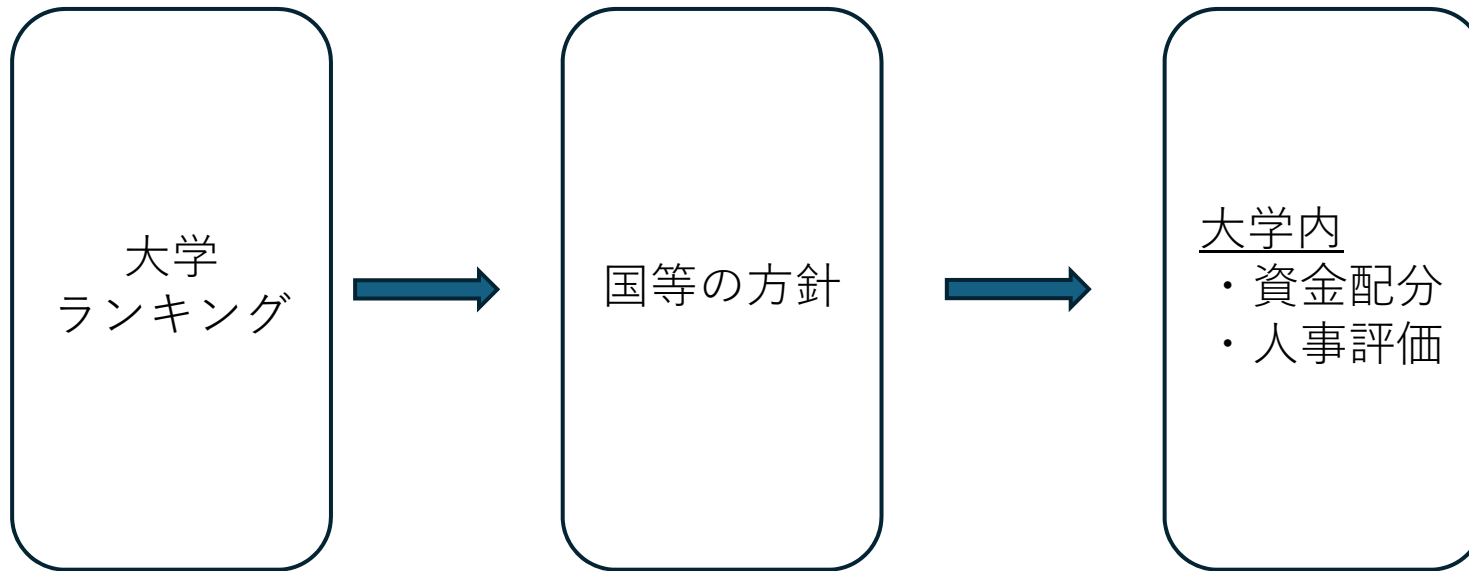
評価がWeb of Science、Scopusに依拠しているため

定量的評価から、ピアレビューに基づく質的评价へ
(CoARA)

その他共通した言及

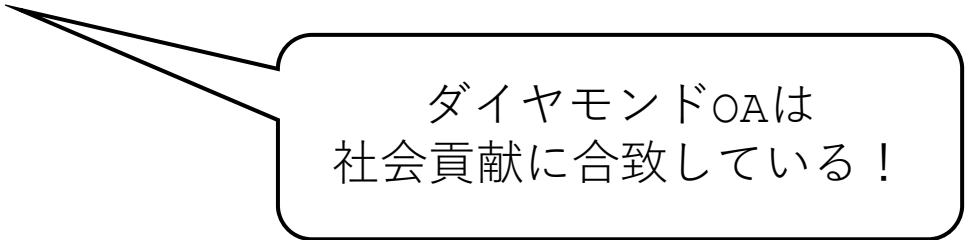
- Gold OAへの極めて強い憎悪
- 途上国がDOIを取得することの困難
- 出版社はダイヤモンドOAも虎視眈々と狙っている

システム全体を見る必要



大学のミッション

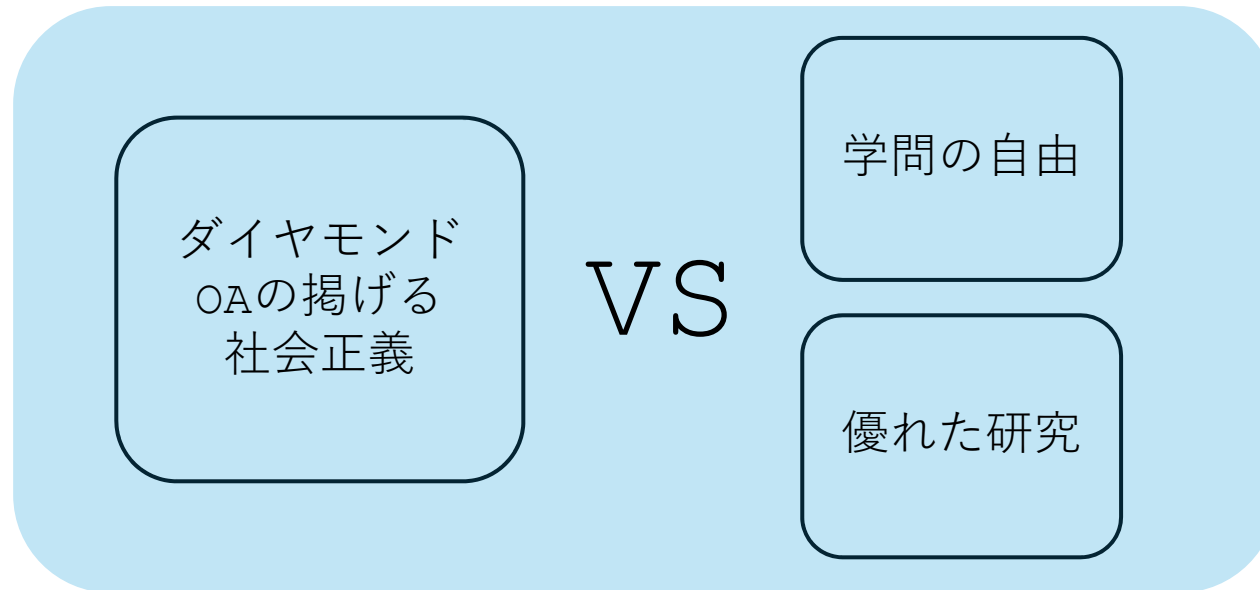
- ・ 教育（100～70年前）
- ・ 研究（70～30年前）
- ・ 社会貢献（30年前～現在）



ダイヤモンドOAは
社会貢献に合致している！

しかし・・・

情熱・理想の先走り



こんな緊張関係が生じてはいけない！！

(時間をかけ、上記が共存できるようにするべき。)

事前課題

- What is your understanding of research assessment?

(研究評価についてどのように理解していますか?)

- In your view, how does research assessment contribute/negate the adoption of diamond OA?

(研究評価はダイヤモンドOAの採用にどのように貢献/阻害すると個人的に考えますか?)

- What criteria, if any, should be used to measure assessment?

(どのような基準が、評価を測定する際に使用されるべきですか?)

- How can research assessment be made more relevant in your region/institution?

(あなたの地域/機関で研究評価をより関連性のあるものにするにはどうすればよいでしょう?)

- Do you think there should be institutional policy/national legislation that focuses on assessment?

(評価に重点を置いた制度的政策や国家立法が必要だと思いますか?)

- Is there anything that you would like to bring to the attention of the Oversight Committee as it relates to research assessment?

(研究評価に関連して、運営委員会に伝えたいことはありますか?)

グルーブディスカッション

- ・インパクトファクターを研究者個人に用いることの愚かさ
- ・若手研究者や、現在の評価システムから外れたことをしたい研究者をどうサポートするか。
- ・ダイヤモンドジャーナル掲載論文に光を当てることにとらわれすぎず、本当にすべきことは、学問・科学・研究がオープンに行われて、その全体を適切に評価できるシステムを築くことではないか。
- ・現在の評価システムから恩恵を受けている研究者も多い。給与に関わってくるので、その改革をすることは大きな困難を伴うと思われる。
- ・ダイヤモンドのオープンアクセス モデルの利点を、研究者と研究者コミュニティに粘り強くアピールする必要がある。
- ・論文の出版だけでなく、オープンな表彰と報酬のシステムも開発したら良いのではないか。

宣言の発出



ダイヤモンドオープンアクセスに関するトルカ／ケープタウン宣言

2023年開催の世界サミット（メキシコ・トルカ）を踏まえ、2024年の世界サミット（南ア・ケープタウン）の参加者として、われわれは、知識の共有は基本的人権に属するということをここに確認する。

この観点から、学術的知識は公共財であらねばならない。知識は、読者や著者を含むすべての関係者にとって障壁や対価なくアクセス可能でなければならない。知識の創出と流通には、不利益や不公平が存在してはならない。

2021年のUNESCOオープンアクセス勧告にあるとおり、ダイヤモンドオープンアクセスはコミュニティのものであり、コミュニティが主導する、非営利の所為である。

社会正義（social justice）、公正性（equity）、誰も取り残さないこと（inclusivity）がダイヤモンドオープンアクセスの基底をなし、このことによって、ダイヤモンドオープンアクセスは他者による支配構造からの脱却、疎外の根絶への原動力として機能する。

われわれは、学術コミュニケーションにおける地域的多様性、言語上の多様性を重視する。ダイヤモンドオープンアクセスの実装には、地域特有の課題、世界共通の課題の双方に対する目配りが必要であり、また研究評価の仕組みにおいても尊重される形で実現されねばならない。

（翻訳：杉田茂樹 JPCOAR 運営委員長）

日本で国際会議に参加できる！

COAR年次大会の2025東京開催を JPCOARがホストします

2025.5.12(月) ～ 14(水) 学術総合センター 2階・一橋講堂

(東京都千代田区一ツ橋2丁目1-2)

アジア初開催！オープンアクセスの未来を一緒に作ろう！

COAR Confederation of
Open Access Repositories とは？

オープンアクセスリポジトリ連合。2024年現在、世界中から
130以上の機関が参加するリポジトリ界を代表する国際団体

ミッション

リポジトリネットワークのグローバルな連携を通じて、研究
成果の可視性と活用を向上させること

日本との関わり

JPCOARはCOARのパートナーとして参加・活動。COARの
年次大会への参加、タスクフォースへの参加を通じ、リポジ
トリに関する世界の潮流を知り、議論を深め、国内の活動に
反映してきました



2024年スウェーデン大会

2024年はスウェーデン第二の都市、
ヨーテボリで開催。各自の関心に合
わせた小さなグループに分かれて、気
後れすることなく活発に情報交換が
できました。

初歩的な質問にも、親身になってア
ドバイスをいただき、初参加でも安
心でした。

2025年東京大会もどうぞお気軽に！